

附 表

安政 4 年	1857 年	大島高任、大橋で我が国初めての洋式高炉を建設。同年12月 1 日、出鉄に成功。
明治 6 年	1873 年	釜石と小白浜に郵便局開局。 釜石小学校創立。
明治 7 年	1874 年	官営釜石製鐵所の建設始まる。
明治 13 年	1880 年	工部省釜石鉄道（釜石港—大橋鉦山間）が開通。
明治 16 年	1883 年	官営釜石製鐵所が廃業。 釜石で大火、600軒焼失。
明治 17 年	1884 年	田中長兵衛、釜石鉦山の再興に着手。
明治 19 年	1886 年	吹入49回で出鉄に成功。高橋亦助の功績顕著。
明治 22 年	1889 年	平田村と釜石村が合併し、釜石町となる。
明治 29 年	1896 年	三陸沿岸に大津波が来襲。死者6,724人。
明治 44 年	1911 年	釜石鉦山専用鉄道（大橋—鈴子間）が開通。
大正 2 年	1913 年	釜石電気株式会社が開業。 仙人峠で鉄索運搬開始。
大正 4 年	1915 年	岩手軽便鉄道（花巻—仙人峠間）が全通。
大正 9 年	1920 年	県水産試験場が宮古から釜石に移設される。 町立釜石実科高等女学校が開校。
大正 13 年	1924 年	田中鉦山株式会社が三井の経営下となる。 笛吹峠経由による釜石—遠野間の自動車運行始まる。
昭和 5 年	1930 年	昭和園グラウンドが開場。
昭和 8 年	1933 年	三陸大津波来襲、死者160人、行方不明243人。 町立釜石商業学校が開校。
昭和 9 年	1934 年	釜石港が開港場となる。 日本製鉄株式会社設立により日鉄釜石製鐵所が発足。
昭和 12 年	1937 年	市制施行、人口4万388人、世帯数7,700。 須賀の埋立て工事、防波堤工事が完了。
昭和 14 年	1939 年	市立釜石工業学校開校。 山田線全通。釜石駅開業。
昭和 16 年	1941 年	県立釜石中学校開校。 太平洋戦争勃発。 NHK釜石放送局がラジオ放送を開始。
昭和 20 年	1945 年	二度にわたる艦砲射撃を受け、死者700余人、重軽傷者327人、全焼家屋2,930戸、全壊家屋180戸。
昭和 22 年	1947 年	六・三制による新制中学校ができる。 天皇陛下全国御巡行、釜石にお立ち寄りになる。
昭和 23 年	1948 年	アイオン台風で山田線不通となる。 学制改革により釜石中学校が釜石第一高等学校に、釜石高等女学校が釜石第二高等学校に改称。
昭和 24 年	1949 年	釜石第一高校、第二高校、商業高校が統合し釜石高等学校に改称。
昭和 25 年	1950 年	国鉄釜石線全通。 日本製鉄（株）の分割により、富士製鐵（株）釜石製鐵所が発足。
昭和 26 年	1951 年	釜石港が重要港湾に指定される。
昭和 29 年	1954 年	新市庁舎完成。
昭和 30 年	1955 年	釜石市、甲子村、鶴住居村、唐丹村、栗橋村の 1 市 4 村が合併。
昭和 32 年	1957 年	公共下水道工事始まる。 橋野町高炉跡が国の重要文化財に指定。
昭和 33 年	1958 年	橋上市場が完成。75店舗が出店。
昭和 34 年	1959 年	仙人有料道路が開通。 中妻地区土地区画整理事業始まる。 平和都市宣言を決議。
昭和 35 年	1960 年	チリ地震津波来襲、被害総額約 6 億 3 千万円。
昭和 38 年	1963 年	県立釜石北高等学校創立。 釜石高等学校を釜石南高等学校に改める。 住民基本台帳人口過去最高の92,123人となる。
昭和 39 年	1964 年	釜石が陸中海岸国立公園に編入。
昭和 40 年	1965 年	釜鉄社線が撤去、86年の歩みに終止符。

164 釜石市の歩み(その2)

昭和 43 年	1968 年	十勝沖地震津波で6億円に及ぶ被害。 市営プール完成。
昭和 44 年	1969 年	国道45号線石塚、鳥谷坂トンネルが開通。
昭和 45 年	1970 年	第25回岩手国体開催。 富士製鐵と八幡製鐵が合併、新日本製鐵となる。 公共埠頭が完成。
昭和 47 年	1972 年	勤労福祉センター完成。老人福祉センター完成。
昭和 48 年	1973 年	和山市営牧場の造成事業が始まる。 特別養護老人ホーム「清風園」が完成。
昭和 49 年	1974 年	昭和天皇・皇后両陛下が全国植樹祭にご出席の途中釜石にお立ち寄りになる。
昭和 50 年	1975 年	釜石市民憲章制定。市の花・木・鳥も決まる。
昭和 51 年	1976 年	浜町で戦後最大の大火発生。被害総額約12億2000万円。
昭和 52 年	1977 年	新日鐵釜石ラグビー部、第14回日本選手権優勝で初の日本一となる。
昭和 53 年	1978 年	湾口防波堤の建設事業に着手。 市民文化会館完成。 公共下水道の処理開始。
昭和 54 年	1979 年	溶融炉方式の新清掃工場が完成。 働く婦人の家オープン。 新日鐵釜石ラグビー部、第16回日本選手権で2度目の優勝
昭和 56 年	1981 年	新市民病院が完成。 三陸鉄道株式会社が発足。
昭和 57 年	1982 年	湾口防波堤の第1号ケーソン設置。 鈴木首相来釜。
昭和 58 年	1983 年	新図書館完成。 市営釜石ビル完成。
昭和 59 年	1984 年	三陸鉄道開業。 富山県朝日町と友好親善都市に。
昭和 60 年	1985 年	鉄の歴史館オープン。 櫛の木平牧場完工。 釜石製鐵所第二高炉休止。 新日鐵釜石ラグビー部、第22回日本選手権優勝。7連覇達成。
昭和 61 年	1986 年	非核平和都市宣言。 釜石製鐵所創業百周年。
昭和 62 年	1987 年	東前町から馬田岬方面にかけて山林火災。 市制施行50周年。 全国勤労者釜石駅伝大会開催。
昭和 63 年	1988 年	国道45号釜石バイパス開通。
平成 元年	1989 年	釜石製鐵所の第一高炉休止。 根浜サンドクラフトフェスティバル開催。 放射性廃棄物の持込み等に関する宣言。
平成 2 年	1990 年	海洋バイオテクノロジー研究所オープン。 第1回はまゆりトライアスロン開催。
平成 3 年	1991 年	沿岸地区運転免許センター開設。 新仙人トンネル国直轄事業に盛り込まれる。
平成 4 年	1992 年	三陸・海の博覧会開催。3会場入場者数2,005,281人（釜石主会場1,324,594人）
平成 5 年	1993 年	釜石信用金庫の解散譲渡。 仙人峠道路新ルート決定。
平成 6 年	1994 年	仏・ディーニュ市と姉妹都市締結。 三陸地方拠点都市の指定。 テレポートピアモデル都市の指定。
平成 7 年	1995 年	仙人峠道路詳細ルート発表、管理用道路工事着手。
平成 8 年	1996 年	第68回選抜高校野球大会・釜石南高等学校が甲子園初出場。 釜石駅周辺整備事業・物産センター「シープラザ釜石」完成。 住民基本台帳人口5万人を割る。
平成 9 年	1997 年	市制施行60周年。 全国豊かな海づくり大会で天皇・皇后両陛下下来釜。 新日鐵釜石、東北電力と電力供給契約締結。

平成 10 年	1998 年	新日鐵釜石、石炭火力発電所の建設に着手。 いとさかしき坂路仙人峠道路起工式が行われる。
平成 11 年	1999 年	米軍機、橋野町の山林に墜落。 インターハイなぎなた競技開催。 新日鐵釜石、火力発電設備に火入れ。
平成 12 年	2000 年	J R 釜石線全線開通50周年。 新日鐵釜石、火力発電所電力供給開始。
平成 13 年	2001 年	新日鐵釜石ラグビー部が地域共生型クラブチーム「釜石シーウェイブス R F C」に移行。
平成 14 年	2002 年	台風 6 号の記録的豪雨による大災害。 松原町の土砂崩れで 2 人死亡。 仙人トンネル本坑 (4485m) が貫通。
平成 15 年	2003 年	橋上市場が営業終了、45年の歴史に幕。 釜石港が国土交通省からリサイクルポート指定を受ける。 三陸南地震により釜石で震度 5 強を記録。 釜石魚市場の平成15年度の水揚げ高が35年ぶりに30億円を割り込む。
平成 16 年	2004 年	釜石市の高齢化率が30%を越える。 トーマンパワー釜石が釜石市和山等に設置した風力発電施設が完成、運転を開始。
平成 17 年	2005 年	大渡橋の架け替え工事が完成。 新日鐵釜石製鐵所の線材の累計生産量が2千万トン達成。
平成 18 年	2006 年	三大基盤整備の一つ、釜石港湾口防波堤が概成。
平成 19 年	2007 年	新仙人峠道路開通。 釜石市制施行70周年・近代製鉄発祥150周年を迎える。 釜石市イメージキャラクター「かまりん」誕生。 愛知県東海市との姉妹都市提携。 釜石市民病院が県立釜石病院と統合し閉院。同所に保健福祉センター開所。 各地区生活応援センター設置。
平成 20 年	2008 年	新青葉ビルオープン。 釜石南高校と釜石北高校が統合し、新たに釜石高校が発足。
平成 21 年	2009 年	釜石港湾口防波堤が完成。 橋野高炉跡が世界遺産暫定リストに掲載の「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産に選定される。 釜石工業高校と釜石商業高校が統合し、新たに釜石商工高校が発足。
平成 22 年	2010 年	岩手沿岸南部クリーンセンターが完成。
平成 23 年	2011 年	三陸縦貫自動車道釜石山田道路 (釜石両石IC～釜石北IC間) が開通。 東日本大震災発生。釜石市復興まちづくり基本計画を策定。
平成 25 年	2013 年	橋野鉄鉱山インフォメーションセンター開所。
平成 26 年	2014 年	大型商業施設イオンタウン釜石オープン。 J R 釜石線で S L 運行開始。三陸鉄道南リアス線の全線運行再開。
平成 27 年	2015 年	ラグビーワールドカップ2019大会開催都市に決定。 橋野鉄鉱山 (橋野高炉跡及び関連遺跡) を含む『明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業』が世界遺産に登録される。 釜石情報交流センターオープン。
平成 28 年	2016 年	希望郷いわて国体 (第71回国民体育大会) 開催。
平成 29 年	2017 年	釜石市民ホールTETTO完成。 岩手大学釜石キャンパス開設。 釜石市制施行80周年・近代製鉄発祥160周年を迎える。 尾崎半島林野火災。被害総額約7億4500万円。
平成 30 年	2018 年	釜石港湾港防波堤復旧工事完了。
令和 元年	2019 年	ラグビーワールドカップ2019大会開催。釜石鶴住居復興スタジアム動員数14,025人。 台風19号による豪雨災害。死者1名。
令和 2 年	2020 年	釜石港がポート・オブ・ザ・イヤー2019を受賞。 東部地区避難路 (グリーンベルト) が完成。
令和 3 年	2021 年	唐丹町大石に所在する屋形遺跡が国の史跡として指定される。 防災推進国民大会 (ぼうさいこくたい) 2021開催。

165 震災関連項目

(1) 地震の概要

発 生 日 時	平成23年3月11日 14時46分頃
震 源	三陸沖（牡鹿半島の東南東130km付近）
規 模・震 度	マグニチュード9.0・震度6弱（市内中妻町）

(2) 津波の概要

第 一 波	平成23年3月11日 14時台 -119cm
最 大 波	平成23年3月11日 15時21分 9.3m
	(注)気象庁（釜石港湾合同庁舎の痕跡等から推定した津波の高さ）

(3) 釜石市の被災状況

人 的 被 害	1,064 人	
直接死者数	806 人	(市内の死者数888人のうち釜石市に住民登録されていた人数)
行方不明者数	152 人	
関連死認定者数	106 人	
避 難 者 数	10,516 人	
市内避難	9,883 人	(平成23年3月17日最大)
内陸避難	633 人	(平成23年5月9日最大)
住 家 被 害	4,704 戸	(市内住家数16,182戸のうち28.8%)
全壊	2,957 戸	
大規模半壊	395 戸	
半壊	304 戸	
一部損壊	1,048 戸	
産 業 関 係		
浸水範囲事業所数	1,382 事業所	(市内全事業所数2,396事業所のうち57.7%)
漁船被害	1,692 隻	(市内3漁協の漁船1,734隻のうち97.6%)

(4) 人口動向

(単位：人)

区 分	釜石市の人口	男女別人口		地 区 別 人 口						
		男	女	被 災 地			非 被 災 地			
				本庁	鶴住居	唐丹	栗橋	中妻	小佐野	甲子
令和4年3月	31,031	14,762	16,269	8,019	3,729	1,499	1,044	3,702	7,156	5,882
令和3年3月	31,840	15,118	16,722	8,226	3,773	1,558	1,100	3,812	7,358	6,013
令和2年3月	32,609	15,487	17,122	8,346	3,780	1,589	1,157	4,069	7,610	6,058
平成31年3月	33,437	15,867	17,570	8,585	3,785	1,626	1,205	4,296	7,798	6,142
平成30年3月	34,240	16,250	17,990	8,731	3,722	1,673	1,275	4,451	8,135	6,253
平成29年3月	35,005	16,610	18,395	8,807	3,779	1,697	1,329	4,600	8,348	6,445
平成28年3月	35,547	16,871	18,676	8,671	3,887	1,696	1,387	4,760	8,495	6,651
平成27年3月	36,078	17,085	18,993	8,891	4,086	1,747	1,381	4,776	8,541	6,656
平成26年3月	36,584	17,327	19,257	9,098	4,213	1,774	1,399	4,869	8,567	6,684
平成25年3月	37,161	17,601	19,560	9,388	4,401	1,809	1,397	4,981	8,522	6,663
平成24年3月	37,590	17,799	19,791	9,578	4,697	1,860	1,335	5,079	8,523	6,518
平成23年2月	39,996	18,798	21,198	10,819	6,630	2,106	1,263	4,856	8,308	6,014
増 減	△ 8,965	△ 4,036	△ 4,929	△ 2,800	△ 2,901	△ 607	△ 219	△ 1,154	△ 1,152	△ 132

(注) 増減は平成23年2月と令和3年3月との比較。住民基本台帳の当月末の人口である。
本庁には平田地区生活応援センターを含む。